



# 循環型産業への移行に向けた JSFAの取組み

2023年8月31日  
第5次循環型社会形成推進基本計画  
策定に向けたヒアリング

1. JSFA概要
2. ファッション産業の課題
3. JSFAの取り組み

# 1. JSFA概要

## 2. ファッション産業の課題

## 3. JSFAの取り組み

# JSFA概要



ファッション産業が自然環境や社会に与える影響を把握し、ファッション及び繊維業界の共通課題について共同で解決策を導き出し、サステナブルかつ循環型のファッション産業への移行を目指す企業連携プラットフォーム。

正式名称：ジャパンサステナブルファッションアライアンス

設立日：2021年8月3日

## <JSFA2050年ビジョン>

2050年	<u>ファッションロス・ゼロ</u> 原材料から最終処分までの全過程における、 焼却処分および埋立処分ゼロ	<u>カーボンニュートラル</u> 原材料から最終処分までの全過程における、 CO <sub>2</sub> 排出の削減と吸収による排出量実質ゼロ
2030年	<ul style="list-style-type: none"><li>衣服の単純焼却および埋立による処分量の削減</li><li>透明性の確保</li><li>循環利用システムの構築</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>新素材、新技術の活用および環境配慮設計の積極的採用</li><li>サステナブルファッションに関連する生活者との積極的なコミュニケーション</li><li>サステナブルファッションへの理解醸成、関連する選択の拡大</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>CO<sub>2</sub>排出量把握方法の統一化</li><li>CO<sub>2</sub>排出量の把握と削減</li></ul>

## 正会員 23社

株式会社アダストリア  
株式会社アーバンリサーチ  
伊藤忠商事株式会社  
倉敷紡績株式会社  
クラレトレーディング株式会社  
株式会社ゴールドウイン  
ザ・ウールマーク・カンパニー  
株式会社CFCL  
株式会社JEPLAN  
株式会社鈴木商会  
スタイルム瀧定大阪株式会社  
Spiber株式会社

株式会社ZOZO  
タキヒヨー株式会社  
帝人フロンティア株式会社  
東レ株式会社  
豊島株式会社  
福助株式会社  
丸紅株式会社  
モリリン株式会社  
株式会社ヤギ  
株式会社ユナイテッドアローズ  
YKK株式会社

## パブリックパートナー

消費者庁  
経済産業省  
環境省  
京都市

## 賛助会員 38社

株式会社AOKI ホールディングス  
旭化成アドバンス株式会社  
株式会社アシックス  
SGSジャパン株式会社  
エプソン販売株式会社  
タオル美術館グループ 一広株式会社  
一般財団法人カケンテストセンター  
清原株式会社  
株式会社 crossDs Japan  
グンゼ株式会社  
株式会社コーベル  
コニカミノルタ株式会社

株式会社サザビーリーグ  
サルト株式会社  
シキボウ株式会社  
セイコーエプソン株式会社  
株式会社タカキュー  
瀧定名古屋株式会社  
株式会社TSIホールディングス  
東京吉岡株式会社  
日華化学株式会社  
日本化薬株式会社  
日本生活協同組合連合会  
一般財団法人日本繊維製品品質技術センター  
ハイケム株式会社

長谷虎紡績株式会社  
バリュエンスホールディングス株式会社  
株式会社V&A Japan  
株式会社フクル  
株式会社フジックス  
Free Standard株式会社  
ブックオフグループホールディングス株式会社  
一般財団法人ボーケン品質評価機構  
一般財団法人メンケン品質検査協会  
株式会社ヤマダヤ  
郵船ロジスティクス株式会社  
リファインバース株式会社  
株式会社良品計画

1. JSFA概要

**2. ファッション産業の課題**

3. JSFAの取り組み

# ファッション業界の課題

ファッション産業は、バリューチェーン全体を通して、自然環境・社会に大きな影響を与えており、改善に向けた取り組みが進められている

- 世界で年間に生産される衣類の数は2000年から2014年の間に倍以上に増え、2014年には1000億着を超えている
- 南米やアフリカ、アジア諸国に世界から大量の中古衣料が輸出され、処理しきれずに不法投棄されている
- ファッション産業は、世界の温室効果ガスの排出量のうち4~8.6%を占めている
- 工業用水汚染の20%は繊維の染色と仕上げ加工によるものと推定されている
- 労働集約型産業であることから、従事者は低価格化の影響を受けやすく搾取構造が生まれやすい



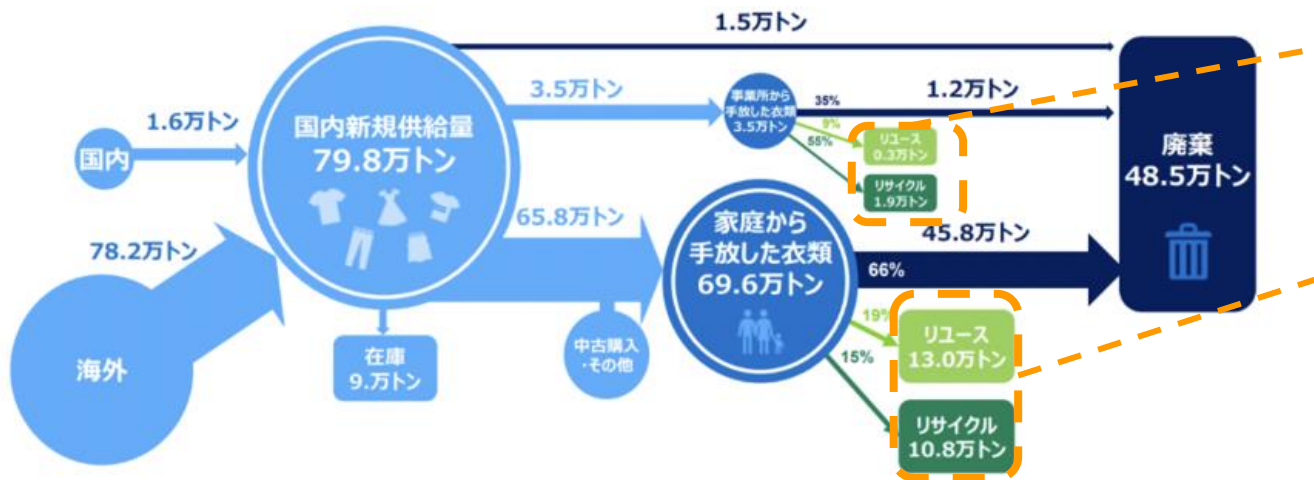
南米チリのアタカマ砂漠に捨てられた衣服の山  
出典：NHKニュース

# ファッションロスの課題① 実態不明箇所の多さ

環境省により、国内では年間48.5万トンの衣類が廃棄されているとの調査結果が出ている。加えて、リユース・リサイクルの目的を持って転売された後のトレーサビリティが低く、適切な利用・再生が行われているか、実態把握が難しく不明瞭な点も多い。また、生産過程でのロスの現状把握も十分ではない

## <環境省調査結果>

2022年版 衣類のマテリアルフロー



## <実態が不明瞭な点>

転売後や、故繊維業者に渡った後は？

海外中古衣料投棄問題との関連は？

事業所におけるロスが出る工程や精緻な量が不明



# ファッションロスの課題② 循環の仕組みが未構築

社会全体で「大量発注/生産/消費/廃棄」から脱却するには、衣服のライフサイクル全体を通して各課題を解決し、循環の仕組み構築をする必要がある

<主な課題>

製造

- 環境配慮型設計：企画段階からの易リサイクル設計が標準化されていない
- リサイクル繊維の定義：定義や評価方法等が定まっていない

販売

- 販売価格：リサイクルにより価格が上昇してしまう
- 出口の確保：「出口」の確保がされていないと回収やリサイクルの量産化に進めない

長寿命化

- 生活者の意識欠如：衣服の低価格化も背景に、長く大切に着る意識が不十分

表示

- 副資材の素材表記：芯地やボタン等は品質表示に素材不記載。リサイクル時に課題に
- 効果的な表記方法：生活者の行動変容を促すための効果的なラベリングがされていない

回収

- 経済性の低下による回収量の減少：リユース価値・再生品の需要低下などにより経済性が低下し、従来の方法では経済的に回らなくなっている
- 自治体毎の状況のちがいがい：回収・再利用する事業者の有無等により対応が異なる
- 生活者の資源意識欠如：衣服がリユース・リサイクル資源であることの認知が不十分

分離分別・再繊維化

- 技術開発：現在の技術では混紡素材のリサイクルが困難（衣服は混紡素材が主）
- 労働力の確保：回収後の衣類は全て手作業で分別。適切な労働環境の確保が必要

適量化

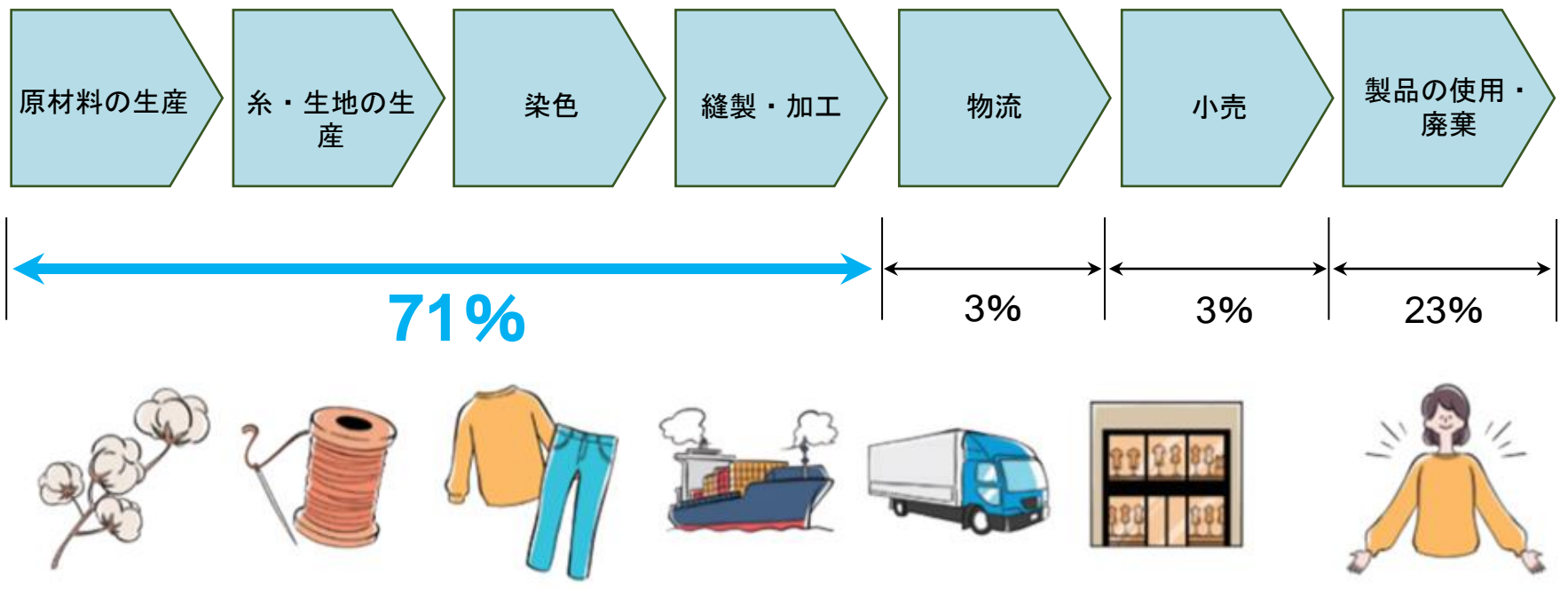
- 経済合理性：生産/販売量調整と経営バランスを取ることの困難さ

# <参考> カーボンニュートラルの課題①：現状把握が困難

ファッション産業ではCO<sub>2</sub>の約70%が製品製造プロセスで排出されるが、サプライチェーンが長く複雑であることから、Scope 3の把握そのものが困難だと感じている企業が多い

## 製品製造プロセスでのCO<sub>2</sub>排出量の把握と削減が肝要

ファッション産業のサプライチェーンとCO<sub>2</sub>排出量の内訳



# <参考> カーボンニュートラルの課題②：原単位の不足

産業連関表の繊維製品に関連する排出原単位は9種類のみ。素材特性ごとの細かいCO<sub>2</sub>排出量が反映された原単位ベースが国内に存在しない

サプライチェーンの各工程において、削減努力を実施してもCO<sub>2</sub>排出量の削減として表現しづらい算定方法となっている

## <環境省DB：産業連関表>

製品が9種類にのみ分類され、CO<sub>2</sub>排出量の係数が掲載されている

表5. 産業連関表ベースの排出原単位 (GLIO: 2005年表)

No.	部門名	①物量ベースの 排出原単位  GHG排出原単位(I-A)-1 t-CO <sub>2</sub> eq/〇〇	②金額ベースの排出原単位		(参考)単価  (品目別生産額表2005より)  百万円/〇〇
			生産者価格ベース GHG排出原単位(I-A)-1 t-CO <sub>2</sub> eq/百万円	購入者価格ベース (内生部門計:輸送除く) GHG排出原単位(I-A)-1 t-CO <sub>2</sub> eq/百万円	
73	綿・スフ織物(含合繊短繊維織物)	1.54 千m <sup>2</sup>	7.36	6.14	0.2002 千m <sup>2</sup>
74	絹・人絹織物(含合繊長繊維織物)	3.27 千m <sup>2</sup>	6.92	5.57	0.4438 千m <sup>2</sup>
75	毛織物・麻織物・その他の織物	7.43 千m <sup>2</sup>	6.66	5.46	1.050 千m <sup>2</sup>
76	ニット生地	4.77 t	5.33	4.97	0.8792 t
77	染色整理	-	9.47	9.47	-
81	その他の繊維工業製品	3.19 t	5.68	5.13	0.5453 t
82	織物製衣服	0.01198 着	4.01	3.23	0.002451 着
83	ニット製衣服	0.0523 デカ	4.64	3.46	0.009127 デカ
84	その他の衣服・身の回り品	0.681 千点	4.58	3.35	0.1199 千点

- リサイクルポリエステル等の環境負荷が低い素材を使用してもCO<sub>2</sub>排出量の削減には繋がらない
- 削減には製品自体の取扱量または仕入れ金額を減少させる必要がある

1. JSFA概要

2. ファッション産業の課題

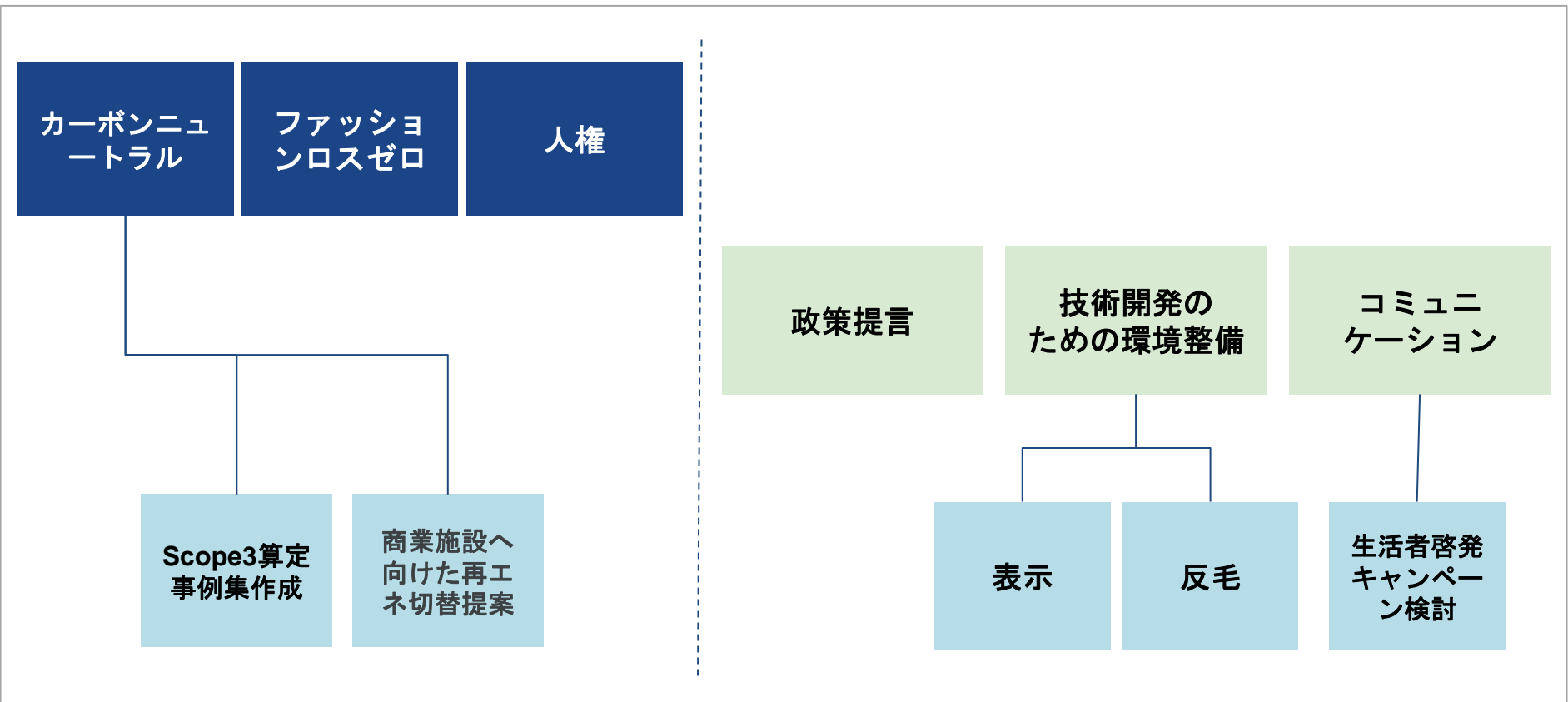
**3. JSFAの取り組み**

# JSFAでの主要議論テーマ

JSFAでは、毎月開催される定例会の他、政策提言委員会・技術委員会（表示/反毛WG）・コミュニケーション委員会（生活者啓発キャンペーン検討WG）などを中心に、ファッションロスに関する議論を進めている

<JSFAの主要会議体>

- 定例会
- 委員会
- WG



# JSFAにおけるファッションロスに関する議論進捗状況

JSFAで全てに取り組むことはできないものの、前述の課題解決に向け、政策提言や、あるべき表示方法の検討、生活者啓発などに取り組んでいる

## <課題>

転売・故繊維業者に渡った後の  
トレーサビリティがない

事業所における  
ロスが出る工程や精緻な量が不明

循環の仕組みが未構築

回収や長寿命化に対する  
生活者の意識欠如

生活者の行動変容を促すための効果的なラベリングがされていない

## <JSFAの主な取り組み>

二次流通事業者へのヒアリングの実施

会員企業へのファッションロスに関するアンケートの実施（非開示）

「衣類回収のシステムづくりと繊維リサイクル技術の高度化」についての政策提言を実施

衣類回収の他、リペアや古着買取など生活者が取り組めることを幅広く啓発するキャンペーン/情報発信の具体案を検討中

不要となった衣料品の再生利用を促進するため、素材や分別方法などの効果的な表示方法を検討中

# まとめ

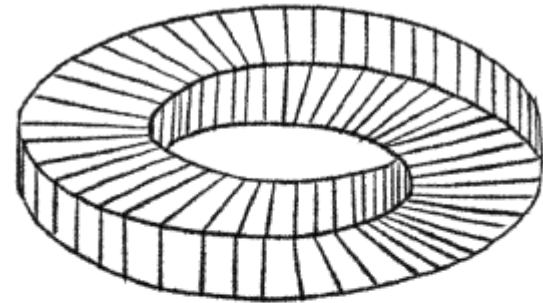
ファッション産業をサステナブルな産業へと移行させていくため、  
JSFA2050年目標達成に向けた取り組みを企業連携で進めていく

<JSFA2050年目標>

カーボンニ  
ュートラル

適量生産・適量購入  
・循環利用による  
ファッション  
ンロスゼロ

サステナブルなファッション産業への推進



**JAPAN  
SUSTAINABLE  
FASHION  
ALLIANCE**